

<b>留 学 報 告 書</b>
------------------

記入日:2021年9月10日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部／経済学科
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: カリフォルニア大学バークレー校 現地言語: University of California, Berkeley
留学期間	2021年5月～2021年8月
留学した時の学年	3年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	International Visitor <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属しなかった。
帰国年月日	2021年8月13日
明治大学卒業予定年	2023年3月
<b>留 学 先 大 学 に つ い て</b>	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input checked="" type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期:8月中旬～12月中旬 2 学期:1月中旬～5月下旬 3 学期:— 4 学期:— (記入例/1学期:4月上旬～7月下旬, 2学期:9月中旬～2月上旬)
学生数	43,185名(大学院含む)
創立年	1868年

留学費用項目	現地通貨 (USドル)	円	備考
授業料	4,950	544,500円	授業料(1ドル110円で計算、550ドル×9単位)
宿舍費	0	0円	オンライン留学のため
食費	0	0円	同上
図書費	196.25	21,588円	サマーセッション書類管理費+授業における教材費(1ドル110円で計算)
学用品費	0	0円	オンライン留学のため
携帯・インターネット費	0	0円	同上
現地交通費	0	0円	同上 ( <input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	0円	同上
被服費	0	0円	同上
医療費	0	0円	同上
保険費	0	0円	形態:一
渡航旅費	0	0円	同上
ビザ申請費	0	0円	同上
雑費	0	0円	同上
その他	210.7	23,177円	円ドル間決済手数料(1ドル110円で計算)
その他	450	49,500円	サマーセッション登録料(1ドル110円で計算)
<b>合計</b>	<b>5,806.95</b>	<b>638,765円</b>	

渡航関連	
<b>渡航経路</b>	
往路 出発地:—	目的地:— 経由地:—
復路 出発地:—	目的地:— 経由地:—
<b>渡航費用</b>	
①往復チケットを購入した場合 航空会社:— 料金:—	
②片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:— 料金:— 復路 航空会社:— 料金:— ∴合計:—	
<b>航空券購入方法</b>	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名: ) <input type="checkbox"/> インターネット(サイト名: ) <input type="checkbox"/> その他( )	
滞在形態関連	
<b>1)種類(留学中の滞在先)(例:アパート, 大学の宿舎など)</b>	
<input type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前: ) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
<b>2)部屋の形態</b>	
<input type="checkbox"/> 個室 <input type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 )	
<b>3)共有部分</b>	
<input type="checkbox"/> バス <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> キッチン( <input type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
<b>4)住居を探した方法:</b>	
<b>5)感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)</b>	
オンライン留学でしたが、本来ならば International House に宿泊する予定でした。 個室と相部屋の 2 種類あり、価格や過ごし方といった観点からどちらかを選ぶとよいと思います。 私だったら 1 人でゆっくりしたい時間が欲しいので、個室を選びます。	
オンライン留学の場合、自宅滞在になるかと思います。 ストレスを溜めないように、事前に受講環境(Wi-Fi, 屋に寝られる部屋、家族の理解)を整えるようにしましょう。	
現地情報	
<b>1)留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。(例:現地の病院, 学内の診療所)</b>	
<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(治療を受けた場所: )	
<b>2)留学期間中、学内外で問題はありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。(例:留学先大学の相談窓口, 現地の友人等)</b>	
<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり(問題の内容や相談した人等: )	
<b>3)現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?</b>	
<b>4)携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)</b>	
<b>5)現地での資金調達はどのように行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)</b>	
<b>6)現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えて下さい。</b>	

7)【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。(例:渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

--

**学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)**

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
9 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 9 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他( ) ・履修の制限はありましたか? 特になし	
3)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
UGBA105 Leading People	組織論
科目設置学部・研究科	Haas School of Business
履修期間	Session A (May 24-July2)
単位数	3 units
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Synchronous (Online: Zoom)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に 150 分が 3 回
担当教授	Prof. Janet Brady
授業内容	<p>以下、シラバス“Course Overview”より引用。</p> <p>The most successful organizations are those that constantly innovate, quickly adjust to changing market conditions and habitually take advantage of opportunities ahead of their competitors. They operate efficiently yet always push for continuous improvement and organizational renewal. These companies don't just happen by accident; they are created by leaders who understand the importance of human dynamics and how organizations work.</p> <p>This course deals with human behavior in a variety of organizations. Conceptual frameworks, case discussions, and skill-oriented activities are applied to each topic and discussed in class. Topics include leadership, communications, motivation, group dynamics, power, the influence of technology, employee motivation and participation and organizational design and development. Class sessions and assignments are intended to help participants acquire the skills that individuals and managers need to improve organizational relationships and performance.</p>
試験・課題など	<p>履修者は 40 人強で、留学生は私と明治の学生、そしてトランスファーのベトナムの学生の計 3 名でした。</p> <p>主な課題は、 グループ発表×1、レポート×3(その内 1 つはグループレポート)、期末レポート×1 でした。</p> <p>成績評価基準は以下の通りでした。          ①Midterm: 20%          ②Final: 20%          ③Group Project Write-up: 15%          ④Group Presentation: 15%          ⑤Case Analysis: 15%          ⑥Class Participation: 10%          ⑦My Mgmt Lab: 5%…教科書の内容に沿った問題を解くウェブサイト。組織論のため、オフィスの議論の様子を再現した動画の問題もありました。</p>

感想を自由記入	<p>サマーセッション中、最も充実していた授業でした。というのも、オンラインでも現地生と深い友人関係を築き、数多のレポートやテスト、プレゼンテーションを共に乗り越える経験ができたからです。</p> <p>現地生曰く、比較的楽な授業とのことでしたが、留学に不慣れな私はこの授業で2点苦勞しました。</p> <p>①My Management Lab 教科書付属のオンライン教材で、web上でケース動画やテストに答えるものです。何が大変かというと、問題を解くために教科書を細部まで読む必要があったことです。元々分厚いのですが、500/770ページくらい読むことになったため、かなり疲れました。ですが、プレゼンのチーム内で適宜進捗を聞きあい、精神的に一緒に頑張ることができました。同様に、明大生間でも情報交換をしていました。</p> <p>②Group Presentation/Report 初週に8グループに分かれ、「各班ごとに組織にインタビューを行い、その組織について最終授業でプレゼンテーションをせよ」という課題が課せられました。まず苦勞したのが、突然ブレイクアウトルームで5人の現地生に囲まれたことでした。当然班員はネイティブで、中にはボストン訛りの学生もいたので、中々聞き取れず、同時に発言もしにくかったです。しかし、2週目くらいになると耳も口も慣れてきて、会話に混ざれるようになり、語学面での成長を実感しました。その頃、次に苦勞したのが、ミーティング回数が限られているという問題でした。大抵の班員は理系科目(CS, Mathあたり)を3講座履修し、出席と課題に追われていたため、週1回1時間=計4回の会議でプレゼンとレポートを仕上げる必要がありました。加えて、組織へのインタビュー(班員がインターンをしていた米オラクルに取材)には比較的予定の空いている私が選ばれ、(とても光栄なことですが)荷が重かったです。そのような限られた時間で、最終的にはチーム内で上手く仕事を分担し、無事に成果物を完成させることができました</p> <p>このように、2つの困難に直面しながら、仲間と頑張ることができたのは、本当に良い経験でした。今振り返ると、私は②で危機感を感じ、チームに働きかける言動(進捗確認や次やることの提案など)をしていました。その努力を班員が認め、より友好的かつ協力的になってくれたことは思い出深いです。</p>
---------	---

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
UGBA106 Marketing	マーケティング論
科目設置学部・研究科	Haas School of Business
履修期間	Session A (May 24-July2)
単位数	3 units
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Synchronous (Online: Zoom)(チュートリアル, 講義形式等)
授業時間数	1週間に150分が3回
担当教授	Prof. Janet Brady
授業内容	<p>以下、シラバス“Course Objectives”より引用。 To provide an understanding of and familiarity with marketing and to learn how to think and operate like a manager in that environment. This will include:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Learning basic terminology and concepts</li> <li>・Understanding the marketing functions and activities and how they fit in the overall business environment</li> <li>・Learning both the qualitative (data driven) and quantitative (judgement, creativity) sides of marketing</li> <li>・Learning how to analyze complex business and marketing situations (cases)</li> <li>・Practicing decision making in a business environment</li> <li>・Improving presentation skills and written communication skills</li> <li>・Working as a member of a team in analyzing and presenting a case study.</li> </ul>

<p><b>試験・課題など</b></p>	<p>受講者は 40 名強で、留学生は私(日本)とベトナムの学生、計 2 名でした。</p> <p>主な課題は、 グループ発表×1、レポート×3(その内 1 つはグループレポート)、期末レポート×1 でした。</p> <p>成績評価基準は以下の通りでした。 ①Written assignments (3, lowest dropped): 30% ②Final: 25% ③Group case presentation: 25% ④Class participation (including attendance) : 15% ⑤Research participation (RPP): 5%…同学部の大学院生の研究にアンケート回答を もって参加するもの。</p>
<p><b>感想を自由記入</b></p>	<p>マーケティングの話をする前に、オンライン形態における授業の選択基準についてお 話したいと思います(オンライン留学向けの Tips です)。 実は、私は SessionA で同じ教授の講義を 2 つ履修していました。1 つが先ほどの組 織論、もう 1 つがこのマーケティングです。もちろん「Haas で勉強熱心な仲間とビジネ スを学びたい」という動機はあったのですが、他に 2 つ理由がありました。</p> <p>①時差がある中で規則的な生活を送るため 日本(JST)とアメリカ(PST)の時差はサマータイム中で 16 時間です。つまり、現地時間 10am の授業は日本時間 2am に受ける必要があります。その場合、例えば、「月曜 は 0~3am、火曜は 5~8am、水曜は 2~5am…」といった非規則的な受け方は体力的 にもたないと判断しました。そこで、同じ教授の授業を 2 つ取り、「毎週火・木・金の 2:30~5:00am, 7:30~10:00am」という規則的な生活を送るという選択に至りました。 その結果、5~11pm に睡眠を取る形で昼夜逆転生活に慣れることができました。</p> <p>②リアルタイム授業(Zoom)であるから 2 月に UCB の website に登録して判明したことなのですが、明治で言うところの「オン デマンド型(動画閲覧のみ)」の授業が 8 割程度でした。そのため、学問的な授業で は現地生と交流する機会が当然少なく、動画を見て一人で課題を黙々とこなす状 況が容易に想像できました。そこで、現地生割合が多い SessionA では、効用を最大 限高めるためにリアルタイム授業の履修を優先しました。</p> <p>さて、マーケティングの授業に話を移すと、前半は面白く、後半はハードでした。</p> <p>前半に関しては、マーケティングの基礎(SWOT Analysis, STP, 4P など)をアメリカの 会社を例に(Apple, Clorox, P&amp;G, Annie's など)習うため、異文化の勉強になりました 。実際、私は政治経済学部生ですが、マーケティングの基礎知識は予習していた ので授業理解はスムーズでした。</p> <p>その中でも印象に残っているのが、“Interesting”、“Compelling”という 2 軸で CM に感 想を言うというものです。「一見、ユニークな映像だけど、視聴者にメッセージは伝わ っているのかな?」といった具合です。例えば、Apple のを年代別に、P&amp;G のをオリ ンピック毎に、Volvo のを国別に比較しました。どれも初めて見る CM だったので、新鮮 な気持ちで意見を考えることができました。実は発言の際は、「前の人と同じ意見を 言うてはいけない」という日本では存在し得ないルールがあり、発表の度に前の学生 と内容が重複しないか緊張しました(そういう意味では、日本の話を絡めると独自性 が増すので絶対にかぶりませんでしたが)。本当に新しい発見の連続でした。</p> <p>後半に関しては、ケーススタディおよびグループワークがメインでしたが、主に 2 点で苦 戦しました。</p> <p>①Case Study の資料の多さ 前半で習った理論を活かし、後半はケーススタディを多く学びました。1 授業で 1 ケ ースというペースで進むため、約 20~30 ページほどある Harvard Business School の 文献を週に 3 つ読む必要がありました。加えて、また別のケースを読んで毎週 800words 程度のエッセイを書くことが課題になっており、大変でした(同教授の組織 論の授業課題とタイミングが重なったのも要因の一つです)。最終的には、時間を捻 出してスキマ時間にケースを読むことになりました。</p> <p>②Group Presentation 私のグループは、ある銀行のクレジットカードの施策を考えることになりました。各メン バーが重役(CEO, CSO など)をロールプレイングする形でプレゼンを行うのですが、私は</p>

	<p>役職面で非常に苦労しました。</p> <p>私は財務担当になりましたが、欲しい銀行の情報が公開されておらず、また、施策効果分析にあたって班員のスライド完成を待たなければなりませんでした。まさに、「手詰まり」でした。ここで班員を頼ればよかったのですが、ミーティング中に英語で上手く意思疎通ができず、追加の迷惑をかけたくなかったので、自力で解決しようとしてしまいました。今思うとそれが悪手で、最終的に、プレゼン後のフィードバックで教授に指摘されることになりました。(実際、この反省を活かして Leading People ではうまく行動ができたのですが)。</p> <p>この授業を通して、「うまくいかないこともある」と痛感しました。悪い方向に傾いた時は、プライドを捨てて他人を頼ることも大切ですね。</p> <p>以上 2 授業が SessionA で私が受講した授業です。私自身、この選択には全く後悔していませんし、むしろ時差がある中で規則的な生活を送り、多くの学びが得られたので非常に満足しています。特に、現地生とのオンラインでも密な関わりは一生忘れないと思います。</p> <p>学部 2 年生以上で、内容に興味のある方は、ぜひ受講してみてください。</p> <p>ちなみに、先生は非常に温厚で、多様な意見を受け入れてくださいます。また、オンラインの割に頻繁に(1 授業で 2~3 回)ブレイクアウトルームでディスカッションがあり、かなり実際の授業に近づけてくださっていた点、非常に感謝しています。実留学でもかなりディスカッションの機会があるのではないのでしょうか。</p>
--	--

<b>履修した授業科目名(留学先大学言語):</b>		<b>履修した授業科目名(日本語):</b>	
UGBA178 Introduction to International Business		国際ビジネス基礎論	
<b>科目設置学部・研究科</b>	Haas School of Business		
<b>履修期間</b>	Session D (July 6–August 13)		
<b>単位数</b>	3 units		
<b>本学での単位認定状況</b>	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
<b>授業形態</b>	Synchronous (Online: Zoom)(チュートリアル, 講義形式等)		
<b>授業時間数</b>	1週間に 150 分が 3 回		
<b>担当教授</b>	Prof. Daniel Himelstein		
<b>授業内容</b>	<p>以下、シラバス“Course Description”より引用。</p> <p>The objective of this course is to introduce students to the core concepts of international business. The course explores both the broad context in which the global economy operates and how firms operate within that broad landscape. Students will play an active role in class, with significant interaction and lively discussion being a core component of the course. The expectation is that assigned readings, problems and/or cases will be completed prior to attending lecture and/or section. Topics covered include:</p> <p>Globalization, Political Economy, Economic Development, International Trade, Entry Strategy &amp; Strategic Alliances, Exporting, Importing &amp; Countertrade, Foreign Direct Investment, Regional Economic Integration, Foreign Currency, Exchange Market, International Monetary System, The Global Capital Markets, The Strategy of International Business, The Organization of International Business, Accounting &amp; Finance, Global Production, Outsourcing &amp; Logistics, Global Marketing &amp; R&amp;D, Culture &amp; Ethics, and Global HR Management</p>		
<b>試験・課題など</b>	<p>受講者は 30 名程度で、留学生が 20 名程度でした。</p> <p>主な課題としては、レポート×2 でした。</p> <p>成績評価基準は以下の通りでした。</p> <p>①Current Event Submissions: 5%: 気になるニュースについて調べてブレイクアウトルームでシェアするもの。</p> <p>②Class Participation: 15%</p> <p>③Midterm Exam: 35%</p> <p>④Final Exam: 45%</p>		

感想を自由記入	<p>SessionD ではこの授業のみ履修しました。選定基準はマーケティングの欄に書いた 2 つですが、特に当授業は学部 1,2 年で学習した一般教養や経済学に関連したトピックをアメリカ基準で学べるため、魅力に感じ履修に至りました。</p> <p>※「全部ビジネスの授業だ」と思われる方もいるかと思います。SessionD でもオンデマンド型が 8 割ほどで、リアルタイム型となるとビジネス系を選ばざるを得なかったです。もちろんオンデマンド型の授業の仮履修もしましたが、文献を読んでレポートを書く課題が多く、それを一人で黙々とこなすのは厳しいと考えました。</p> <p>さて、授業としては上の「授業内容」の通り、グローバル化、政治経済、経済発展、国際貿易…というように広く浅く学べました。教授が日本好きのようで、授業中は日本の話題が出ました。トヨタや任天堂の話から、デフレや労働生産性の話まで多岐に渡っていた記憶があります。そのため、かなり親しみやすかったです。</p> <p>一方で、SessionA の 2 授業と比べると、いくつか違う点がありました。例えば、受講者 30 名のうち 20 名近くが留学生で、特に中国から受けている学生が多かったです。7~8 月のため、海外留学生が多くなるのでしょう。益々日本人と中国系の人の区別がつかないと感じました。ほかには、課題やブレイクアウトルームが比較的少なかったと感じています。レポートは週間ニュース報告と中間期末試験だけでしたし、授業も先生が牽引していくタイプでした。</p>
---------	---

### 卒業後の進路について

1) 進路 ※3年生以下の方は今後の予定を記載してください(下記 2 以降は記入不要)
<input type="checkbox"/> 就職 <input type="checkbox"/> 進学 <input type="checkbox"/> 未定 <input checked="" type="checkbox"/> その他:基本的に就職を考えている。だが、他の可能性も検討中。
2)進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関など
・プログラム情報:国際教育事務室、政治経済学部事務室。 ・経験談:学生留学アドバイザーの方々、ACE の先生方(政治経済学部の英語選抜授業)。
3)就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません) ※就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。
国際事業に携わり、日本と関係国を豊かにできる企業(総合商社、ディベロッパー、メーカーなど)。
4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。 (例:留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。) ※就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。
まだ就活途中の 3 年生ですが、就職活動について 2,3 年生に伝えたいことは 2 点です。
<p>①早めに始めるべし。</p> <p>就職活動では、自身の経験や特性などを言語化し、入社して何をしたいか/何ができるかを会社に伝える必要があります。その方法として、エントリーシート(ES)や面接がありますが、何より経験値が大切なので、先に始めて修正を加えていくに越したことはありません。特に、外資系企業やコンサルティングファームを志望する方は、3 年生の 4,5 月に夏期インターンシップ(以降、「夏 IS」)の募集締め切りを迎えます。日系大手は 6,7 月の締め切りが多いです。そのため、春休みごろから始めると「就活を早く始めた組」として経験を積み、夏 IS 参加によって早期もしくは本選考優遇を得られると思います。</p> <p>よく「明大生は(早慶以上と比べて)動き出しが遅い」という噂を聞きますが、経験的にその通りだと思います。付け加えると、MARCH 以上の大学は就活セミナーも多く開かれ、開始時期だけでなく情報面で差があると考えてよいです。したがって、留学を志すのと同様、必要なことを早期から「自ら調べ、自ら考え」行うのが大切です。</p> <p>②就職希望の 3 年生は、留学前に就活計画を大まかに立てるべし。</p> <p>私の場合は日本からオンラインで参加したため、UCB と就活が両立可能な状況でした(渡米できる場合には詳しくありませんが、ポスキャリアやオンラインインターンが候補になると思います)。一方、SessionA(5,6 月)が想像以上に忙しく、同時履修していたゼミナール活動や就職活動に十分な時間を割くことができませんでした。そのため、SessionD(7,8 月)では授業数を減らし、空いた時間をゼミナール・就職活動に充てました。後者においては、web テスト・ES 対策を 3 月から行っていたことが功を奏し、結果的に 20 社近い夏 IS に参加することができました。</p> <p>この経験から言えることは、「就活計画を立ててから留学に臨むべき」ということです。これは、オンライン留学・実留学両方に当てはまることでしょう。良くも悪くも、留学は一度始まると後戻りができません。そのため、事前に先輩(それこそサークルや学生留学アドバイザーなど)から話を聞き、就活のペース配分について一考するとよいかと思います。</p>

さて、①、②では長々と就活における注意点を述べましたが、私の経験則、最も大切なのは、将来の不安よりも「現在の留学への期待・希望」だと考えます。今抱いている「ワクワク感」は、あなた自身が主体的に考えて生まれた感情なので、留学実現まで大切にしてほしいです。そして、常に先回りして物事に取り組み、やりたいことにしっかりと時間を投資してほしいです。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

—

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備, 試験対策等)をお願いします。

—

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

—

#### 留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備, 試験勉強, 留学中, 留学後, 特に留学に関連して発生した事項を記入してください。例: 語学試験の勉強, 選考, 出願, ビザ申請・取得, 航空券購入, 予防接種, 滞在先の確保, 留学中の中間試験, 期末試験, その他イベント等

2018年 1月～3月	【中学3年】 オーストラリア研修(ホームステイ2週間)。 【高校1年】 英検2級。中国研修。 【高校2年】 受験勉強開始。訪日観光客向けボランティア活動開始。
4月～7月	【高校3年生】 受験勉強。
8月～9月	同上。
10月～12月	同上。
2019年 1月～3月	明治大学政治経済学部経済学科に合格。 入学直前に英語選抜クラス(ACE)の存在を知り、TOEICの勉強をする。
4月～7月	政治経済学部経済学科に入学。 【大学1年生】 TOEIC750程度。 入学後の英語の取り組みとしては以下の通り。 ①ACEのAdvancedでTOEFL対策、プレゼン・ディベート実施。 ②高校の友人の紹介で、週1回個人英会話(現在も継続中)。 ③訪日観光客向けボランティア活動再開。
8月～9月	TOEFL iBT 75程度。
10月～12月	学生留学アドバイザー・事務室などから留学情報を集める。 ①600以上の講義から好きなことを学べる ②英語・学力ともにレベルが高い ③多様な人種がいるアメリカに立地 という理由でUC Berkeleyに申し込む。

2020年 1月～3月	UC Berkeley Summer Sessions への留学、トップユニバーシティ A 奨学金の受給が決定。インターネット上で学生・履修登録を済ませ、アメリカ大使館でビザを取得。 しかし、新型コロナウイルスの拡大に伴い、留学が正式に中止となる。
4月～7月	【大学 2 年生】 明治大学のオンライン授業を受講。 次年度留学に向け、①ACE②英会話は継続。 ここで新たに、③「統計学×英語」の 2 年次ゼミで活動。米名門海外大学院卒の先生と OpenIntro Statistics(アメリカ学部生の統計学の教科書)について議論する。この授業を通して、コロナ禍でもモチベーションを保つ。
8月～9月	夏休み TOEFL iBT 85 程度。
10月～12月	11 月:政治経済学部ゼミナール入室試験。 留学経験のある先輩が多いゼミナールに入室。 12 月:再度 UC Berkeley へ留学を申し込む。 同時に、政治経済学部のベトナム短期留学プログラムに申し込む。  以降、無事に参加決定(奨学金 A も獲得)となり、大学 3 年次、 2021 年 2~3 月にベトナム、5~8 月に UCB へのオンライン留学に参加。

### 留学体験記

授業の感想が長くなったにも関わらず、最後までお読みいただきありがとうございます。  
バークレーに申し込むのは 2 回目なので、私自身、2 年分の思考整理が難しかったです。

思い返すと、1 年生の時に当校に申し込んだ理由は 3 つありました。

- ①学びたい講義を 600 以上の中から選べる
- ②英語・学力共に世界トップレベルである
- ③アメリカという「人種のサラダボウル」と呼ばれる環境で学べる  
ところが、新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいました。

その後、2 年次に紆余曲折あり、オンライン覚悟でバークレーに再度申し込むことにしたのですが、その目的はバークレー(3 年次 5~8 月)より前の、ベトナムオンライン留学(3 年次 2~3 月)を通してかなり変化しました。というのも、前述した 3 点の中でも、②に関して、「自身の実力がどの程度通用するのか試したい」という想いが強くなりました。

背景としては、個人的にはオンライン形態であることが関係していると考えています。対面ならノリで流せることがオンラインでは流せないからです。例えば、ブレイクアウトルームではしっかり発言機会が回ってくるし、成績は筆記試験一発勝負ではなく推敲可能な word や録画で提出しますよね。

そういった経験をベトナム留学でしたので、無意識のうちに「実力を出し切ることに」重点を置いていました。結果的には、優先順位付きで①~③を留学中に満たす形になったのかなと思います。

長い回顧となりましたが、私は次の目標として「現地留学」を掲げています。新型コロナウイルスで海外への渡航が 1 年近く制限されていますが、最近私の友人も徐々に現地留学に飛び立っています(2021 年 9 月時点)。私も世界の様々な人や文化とより触れ合って視野を広げ、「自身の将来どのように社会に貢献するか」考えを広げ、同時に深めたいです。

最後に留学準備に関してですが、私は 3 点から行っていました(皆さんにも役立つと嬉しいです)。

- ①情報収集、②英語スコア、③GPA です。
- ①:留学パンフレットや当学のHPで応募可能な留学先全てに目を通す→学生留学アドバイザー/過年度留学生/事務室に話を聞き、理解を深める→留学先の選定
- ②:とにかく高いスコアを取得しておく/必要な英語スコア取得に向けて対策する
- ③:とにかく高い GPA を取得しておく ※GPA は後から修正が効かないので注意。日頃から全 S(~A)を取る気持ちで勉強していれば、留学先で極端に困ることもないです。

いよいよ本当に最後になりますが、皆さんの留学が理想の形で実現することを心から願っています。英語学習から情報収集まで、留学は時間をかけて取り組む価値は大いにあります。常に一歩前に踏み出す勇気を持って、挑戦してみてください。私自身、いつでも後輩の力になりたいと考えているので、コンタクトお待ちしております。